

2025 年度カナダ短期留学報告書

農学部・動物科学科・2 年・森田拓海

1. 当初の目的

私のカナダ留学における目的は、自身の英語能力を確認し、現在地を把握することだ。そこでこの目的のために 2 つの目標を立てた。1 つは英語を用いた会話の際に、「英語を英語のまま理解」することだ。私はこれを、単語や文を頭の中で日本語に翻訳せず想像する、ことだと解釈した。例をあげるなら、“explain:説明する”を頭の中で即座に“誰かに何かを説明している”光景を思い浮かべることだ。もう一つは、わからない単語をすぐに調べるのではなく、似たような単語などでの説明を試みることだ。英語を覚えるためには自分自身の経験と結び付けて記憶することが必要不可欠だと考えている。

2. 目的達成のための現地での活動の内容

留学当初からホストファミリーや先生となるべく会話をするよう試み、その中で様々な考えの変化があった。一つは英語で考えることだ。当初は英語で理解することにおもきを置いていたが、自分の喋る内容を日本語で考え、英語に翻訳し発する、という過程が英語で理解すること以上に会話内でのラグを生むことに気づいた。そこで簡単な返答の際には文法ミスを恐れず、英語で考え、発することに注力した。ミスした用法などはなるべく会話で再度使い、使い方に慣れるよう努力した。また、学校のアクティビティ内で行った UBC の生徒へのインタビューやホストファミリーとの会話の中で、自分が興味を持つ内容や話題に積極的に質問し、カナダと日本の大まかな考え方の違いや独自性についても調べた。

留学後半は今まで以上に積極的に会話した。また、イングリッシュカフェに参加し、英語を用いたアクティビティを行ったり、ジャパニーズカフェに参加し、簡単な日本語を教えたりなど、英語を用いたスムーズな会話を目指して努力を続けた。日本の文化（納豆）の話題など、多少の専門性が求められるものの説明をすること、聞いて理解することは難しい一方で、非常にやりがいを感じた。その中でもわからなかった単語の意味などは積極的に聞くことを意識した。またホストファミリーとはメープルシロップの生産地やその特徴について、それに準ずる環境問題などについてといった専門性のある会話を行った。

3. 目的達成度の自己評価

私の英語に関係する能力は今回の留学で大きく向上したと考えている。特に英語を聞き取る能力が大きく向上した。単語それぞれで文の意味を推測するのではなく、ある程度の文を文のまま理解できたこと、つまり「英語を英語のまま理解」することができた結果であると考えている。一方で、喋る能力はあまり向上させられなかったと

考えている。内容が単調になりがちであり、会話での適切な返答を英語で伝えられなかったことが多かった。喋ることに必要な語彙力は、自身の日頃からの単語帳などを用いた学習などに加え、それを継続的に使うことで向上するものであり、私自身の勉強不足を実感した。しかし、会話の中で知らなかった単語や英語で表現できなかった文などはホストファミリーや先生に徹底して意味を聞くようにし、日常会話で組み込んで会話するよう心掛けた。

4. 今後の取り組み

この3週間で本物の英語に触れ、私の現在地を確認するという目的（＝ゴール）を達成できた。そこから長期留学をするという次のゴールをつくり、それに必要なIELTSやTOEICの語学スコアの達成のために日頃からのスマートフォンのアプリを用いた英会話学習や単語、文法の学習を継続し、挑戦を続けたい。

5. その他

(ア) 持って行って良かったもの

- ・たためる洗濯かご：風呂場兼トイレに脱衣後の服を置いておける場所がなかったため。もちろん本来の用途でも使える。
- ・日本のお菓子：知り合いになった外国人との会話のネタとしてだけでなく、日本人とシェアすることで日本の味を思い出し、感傷に浸ることができる。
- ・ハンド・フェイスクリーム：バンクーバーは日本よりも乾燥しており、乾燥肌の自分は重宝した。
- ・水筒：カナダは物価が日本に比べて高く、自販機の水でも4ドルほどであるため、ほぼ必須。（その代わり様々な場所に無料のウォーターサーバーが設置されている。）私自身はUBCロゴの入ったタンブラーを購入して利用していた。
- ・箱ティッシュ・ポケットティッシュ：自分の肌に合うティッシュを使いたかったため。しかし、私の家庭にはティッシュが用意されていなかったため、結果的に必要不可欠であった。
- ・話のネタ：あらかじめ英語でネタを考えておくことで、ホストファミリーや先生との会話がスムーズに進みやすい。

(イ) 用意したがいらなかったもの

- ・ハンガーと洗濯ばさみ：自室となる部屋にあらかじめ用意されていたため。
- ・半袖Tシャツ：夏なので多めに持って行ったが、二週目くらいから寒くなり、長袖を着ることが多くなったため。
- ・スリッパ：玄関で靴を脱ぐ家庭だったため。
- ・多めの現金：カナダはカード社会であり、基本的にすべての店がカード支払いに対応している。

(ウ) 現地で使用したお小遣いの金額

- ・CAD 札：約 30 ドル

- ・クレジットカード (VISA) : 約 700 ドル

6. 次年度以降の参加者へ

(ア) 事前に準備した方がよいこと

- ・話のネタ：自分の出身地、大学での専攻、カナダと日本の違いで感じたことなどをあらかじめ用意し英語で簡潔に説明できるようにしておくことで日本語から英語に変換する際のラグを減らし、話のキャッチボールをスムーズに行える。他者への質問や英語で話しかける際の文言なども用意しておくで非常に便利。

(イ) 事前に勉強すべきこと

- ・チップ文化への理解：前述のとおり、カナダはカード社会のため、カード支払いの際に、希望金額のチップと料金をまとめて払うことが多い。(15%, 18%, 20%、自分で設定、チップ無しから選択することが多い。)
- ・簡単なやり取りの練習：コンビニやお店での店員との注文・会計などのやり取りの方法を調べておく。初めて行った店などで注文方法が分からない場合、初めて来店したことを伝える、おすすめを聞くなどでスムーズに注文できる。



大学構内にリス (squirrel) が生息



授業で訪れた Granville Island



Metrotown のモールのフードコートで



main・mall 北側（海とガーデンが見える）